

シンポジウムのご案内

平成 25 年 9 月 18 日

2013 年版「日本のジャーナリスト調査」*を読む

—日本のジャーナリズムの現在—

1. 目的

本研究所は、日本全国のジャーナリストを対象とした調査を 2013 年 2 月～3 月に実施いたしました。この調査は、2007 年に本研究所が実施した「日本のジャーナリスト 1000 人調査」の継続調査であるだけでなく、**国際比較ジャーナリズム調査** (Worlds of Journalism Study <http://www.worldsofjournalism.org>) の一貫として行われました。

本調査は、日本の①ジャーナリズムの役割概念、②役割の重要度、③変化するジャーナリズム環境の影響、④倫理的な問題の評価、⑤職業的自律性、⑥オンラインメディアの影響評価、⑥ジャーナリズムの問題点、⑦改善のための方策、などについて現役のジャーナリストに評価を求めています。本シンポジウムは、この調査によって明らかにされた結果に基づいて「日本のジャーナリズムの現在をどのように読むか」を問うことを目的としています。本シンポジウムでは、このテーマを議論するに相応しい方々をパネリストとしてお招きしています。いずれの質問項目も日本のジャーナリズムの今を考える上で、重要な要素となるでしょう。ご関心の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

2. 概要

主催：日本大学法学部新聞学研究所

後援：日本マス・コミュニケーション学会

日時：2013 年 10 月 25 日（金） 午後 3 時～7 時

場所：日本大学法学部三崎町校舎 10 号館 1011 講堂

〒101-8375 東京都千代田区三崎町 2-3-1

① 基調報告：大井眞二（研究プロジェクト代表）

② パネル討論

司会：小川浩一（本学新聞学科教授、研究プロジェクトメンバー）

パネリスト（順不同）

千葉光宏氏（朝日新聞社ゼネラルマネージャー補佐）

坂東賢治氏（毎日新聞編集局次長）

鈴木裕一氏（産経新聞編集局総務）

中嶋太一氏（日本放送協会報道局主幹）

小栗 泉氏（日本テレビ報道局解説委員）

3. 参加について

参加は無料です。申し込みも不要、当日そのままお越し下さい。

* 本調査は、日本大学学術助成金[総合] (平成 23～24 年度) の助成を受けて実施されました。

問い合わせ先 大井眞二（研究プロジェクト代表）

携帯電話 090-4700-8250 E-mail: shinoi@law.nihon-u.ac.jp